

～IPv4枯渇に向けて～ コンテンツ事業者はどうすればよい？

2009/7/9

概要

1. 背景と論点
2. 発表者ご紹介

日本でIPv6インターネットはいつ普及するか？

- 「IPv4が新たに割り当てされない」ことが現実味を帯びるまで、きっとみんなうごかない。
- フレッツがIPv6インターネットに対応するのは2011年。
- 他のアクセスネットワーク提供者の動向は??
 - 新たな利用者を獲得できれば別だが。。
- 新規IPv4アドレスが枯渇しても、当面IPv4インターネットが主流。
 - いきなりIPv6のみは難しい。



IPv6の普及開始は2011年以降。
本格的に広がるのはもう少し先になる。


コンテンツ事業者側は どうすべきか？ 何をすべきか？

- すでに(IPv4)インターネットでコンテンツを提供している事業者
 - IPv6対応しても、アクセスがなければ意味がない。。
- しかし。
 - いつかはIPv6でのアクセスは増えてくる。
 - 新たなサービスをするときに、IPv4アドレスはとれないかもしれない。

さらに。。。

- 「コンテンツ」自体はIPv6対応にあたって、問題はないのか？
 - 複雑化するコンテンツ
 - 複数のサイトからコンテンツを集め、ページを構築する
 - Scriptが走り、動的にコンテンツを構築する
 - 作成する側の体制
 - コンテンツを管理するシステム
 - コンテンツ自体を作っているみなさんに、IPv6に関する細かい知識を要求するのは難しい。

今回の議論したいポイント

- 「大規模サーバと複雑なコンテンツのIPv6対応化実証実験」を題材に
 - コンテンツ事業者の考え方、IPv6対応の考え方は？
 - コンテンツやサービスを楽しむクライアントの環境はどうなっていくか？
 - コンテンツ事業者を、データセンターがサポートするには？
- 
- 結局、コンテンツ事業者はどう取り組んでいったらよいか？

Speakerのみなさん

- 大規模コンテンツ事業者の立場から
 - 日本経済新聞社 一木宏行さん
- アプリやクライアント環境を知る立場から
 - テックスタイル 小山哲志さん
- データセンタの立場から
 - マルチフィード 飯島洋介さん